

北陸新幹線福井・敦賀開業に向けた福井県の魅力発信、認知度向上プロジェクト

フ ク イ ト ラ ッ ド
『FUKUI TRAD』プロジェクト発足

7つの伝統工芸品 × BEAMS JAPAN + 創作あーちすと「のん」と
コラボレーションしたプロダクトを開発！

2020年9月1日（火）プロジェクトWEBサイト公開開始

<http://fukuitrad.jp/>

福井県は、2023年春の北陸新幹線福井・敦賀開業に向けて、県の魅力を発信するため、福井県が誇る7つの「伝統工芸」に着目し、伝統工芸をより身近な存在にアップデートをすることを目指した『FUKUI TRAD』プロジェクトを発足、2020年9月1日（火）プロジェクトWEBサイトを公開開始したことをお知らせいたします。（プロジェクトサイトURL：http://fukuitrad.jp/）

本プロジェクトは、株式会社ビームス（所在地：東京都渋谷区、代表取締役社長：設楽洋（したらよう）、以下「ビームス」）が運営するBEAMS JAPANをパートナーとし、さらに、女優・創作あーちすと「のん」さんを迎え、新ブランド『FUKUI TRAD』を立ち上げ、今後、7つの福井の伝統工芸をアップデートし、生活に定着するアイテムを開発していきます。



FUKUI TRAD

■プロジェクト発足背景

2023年春、北陸新幹線が福井・敦賀まで延線されるという背景を受け、福井県の魅力を首都圏の方を中心に発信することを目的に、本プロジェクトを開始いたしました。魅力を伝えるにあたり、福井県が誇るものの一つである「伝統工芸」に関する情報を発信することで、福井県の認知度向上、ファンの創出を図ってまいります。

「伝統工芸」は芸術的・歴史的側面に着目されることが多く、一般の方が親しみを感じづらいことが課題となっております。本来、伝統工芸は日常で利用されてきたものではありませんが、ライフスタイルの変化により、価値の変化が起こったといえます。

そこで、現代のライフスタイルに合わせた形で伝統工芸をアップデートすることで、より多くの方に福井県の伝統工芸に親しみを持っていただけるのではないかと考え、新ブランド『FUKUI TRAD』を立ち上げました。

本プロジェクトは、「ビームス」が運営する、日本をキーワードに、幅広いカテゴリーのコンテンツをキュレーションするBEAMS JAPANをパートナーとし、また、創作あーちすとして多数の作品を発表しているのんさんを迎えることで、より若者の感性に合った商品を開発し、「伝統工芸」の新しい価値を創出してまいります。

100年後も伝統であるために。

100年を超えて受け継がれてきたものを伝統といいます。

暮らしに豊かさと潤いを与える本物の業です。

でも考えてみると、

100年前の暮らしと今の暮らしはかなりちがいます。

住居も、食卓も、服装も変化があって当然。

変わらないって、むしろ不自然なのかもしれない。

福井は、

これまでの伝統工芸のあり方にとらわれません。

時代にあわせて、自由な発想で、

いまの暮らしのことを考えて、

本当にいいものを作ります。

越前漆器、越前和紙、越前焼、若狭塗、越前筆筒、

若狭めのう細工、越前打刃物。

7つの業をあわせて。

新しい伝統は、福井が作ります。

FUKUI TRAD

■キックオフミーティング

本事業発表に先駆けて行われたキックオフミーティングにおいて、杉本福井県知事より本事業の狙いや、ビームス・のんさんへ期待すること等の発言がありました。また、ビームス設楽社長やのんさんから本事業に対する意気込みを語っていただきました。

・福井県知事 杉本達治様コメント

「福井の伝統工芸品をひとつのキーワードにして、福井を売り出していこうというのが一番の狙いです。その意味でビームスの皆さんには商品の開発力と発信力という部分を期待しています。今まで見たことのない福井を磨き出していきたいと思います。また、のんさんのイラストは個性的で特徴的なイラストだと感じています。そうした素敵なデザインを福井県の伝統工芸品に活用させていただき、現代の方達の感性に訴えられるような、実際に使っていただけるような物を生み出していきたいです。」

・株式会社ビームス 代表取締役社長 設楽洋様コメント

「ビームスは主に、海外の良いモノ・コトを日本に紹介するということをずっとやってきました。40年経って、今度は日本の良いモノ・コトを世界に紹介するために BEAMS JAPAN というプロジェクトを始めました。そうした中、日本の良いモノを海外に紹介する前に、日本人自身が「日本ってカッコいいじゃないか」と思わなければ海外に伝えることもできないであろうという考えが生まれ、最近では日本人に向けてそういうことを気付かせるプロジェクトを進めており、素晴らしい技術であったり、モノづくりであったり、そこにビームス的な新しい感性を入れるという事を行っています。福井県の良いモノを日本人自身に、そして海外に伝えていきたいです。」

・株式会社ビームス BEAMS JAPAN ディレクター 鈴木修司様コメント

「先日、実際に福井県に行ったのですが、今回関わらせていただく7つの伝統工芸品を作っている方とお話する中で、改めてレベルの高さや魅力を直に感じました。どうしても工芸品というと、一部の方が好きとか遠い存在になりがちなものなので、これを少しでもビームスにお買い物に来るようなお客様、客層の方々に身近に感じていただきたいと考えています。」

・女優・創作あーちすと「のん」さんコメント

「今回 BEAMS JAPAN さんにお誘い頂き、福井県の伝統工芸品に私の描いた絵で関われるということで、とても嬉しいです。若い人たちに触れてもらうには「映える」ことが凄く大切だと思います。福井県の工芸品を見てみると職人さんが創った美しいものが沢山あるので、写真映える素敵な絵が描けるか今からドキドキしています。」

■ 下記 URL より、のんさんのオフィシャルメッセージ動画をご覧ください。

URL : <https://www.youtube.com/watch?v=wHE0Ta68KIg&feature=youtu.be>

■ 下記 URL より、キックオフミーティング時のオフィシャル素材のダウンロードが可能です。

URL : <https://bit.ly/3jmxMFT>

<格納素材>

キックオフミーティング時の様子、下記 3 点

・福井県の伝統工芸に関する説明を受けるのんさん



・キックオフミーティングは福井県と都内にて遠隔で実施しました。モニターに映っているのは杉本福井県知事。



■ 福井県の 7 つの伝統工芸とは

福井県には経済産業大臣指定の伝統工芸品として、越前漆器、越前和紙、若狭めのう細工、若狭塗、越前打刃物、越前焼および越前筆筒の 7 品目があります。

・越前漆器（えちぜんしき）／主な生産地：鯖江市

越前漆器の歴史は古く約 1500 年前に遡ります。継体天皇が皇子のころ、壊れた冠を片山地区（鯖江市片山町）の塗師が修理して黒塗りの椀を添えて献上すると、見事な出来栄えに感動し、片山集落での漆器づくりを奨励したと伝えられています。もともとは堅牢な塗物だったのを、江戸時代以降、京都から蒔絵を、輪島から沈金をそれぞれ取り入れ、華麗な装飾性を帯びるようになりました。形も、明治期半ばには丸物といわれる椀類が大半でしたが、角物といわれる膳類などを手がけ、重箱や手箱、盆、菓子箱、花器など製品群が多様化してきました。



・越前和紙（えちぜんわし）／主な生産地：越前市

奈良時代までは仏教の写経用紙が主でしたが、公家武家階級が大量に使い出すと、技術や生産量も向上し、「越前奉書」など高品質紙が作られるようになり、その後幕府や領主の保護を受け発展し、全国有数の産地となりました。明治元年には日本最初のお札用紙に採用、美術界でも横山大観や平山郁夫などの芸術家に支持されました。近年は、壁紙やふすま紙のほか、インテリア用品としても用途が広がっています。



・若狭めのう細工（わかさめのうざいく）／主な生産地：小浜市

奈良時代のこと、玉を信仰する海民族、鰐族が若狭一の神社がある土地にきました。そして、神社の前に鰐街道を作り、玉をつくることを仕事としたのが、若狭めのう細工の始まりといわれています。めのうとは、年輪状の模様をもつ半透明の石英という石のことです。この原石を 200～300 度で焼くと美しく発色することがわかり、若狭独特の焼き入れ技法を作り上げました。焼き入れ後は彫刻、成形、磨きの工程です。硬い原石に、時間をかけて彫刻・研磨を施していきます。



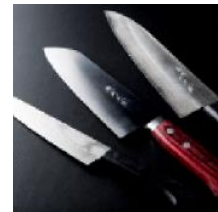
・若狭塗（わかさぬり）／主な生産地：小浜市

寛永11年（1643年）若狭の国に赴任した酒井忠勝が「若狭塗」と命名し、その惚れ込みようは、他藩への技術流出を禁止したほどでした。若狭塗は、宝石塗というにふさわしい輝きです。その輝きは、卵の殻や青貝、マツの葉、菜種などで作られています。青・黄・赤の漆を塗り重ね、金箔で包み、その上に上等な漆を数十回塗り重ね、砥石と特殊な隅で研ぎ上げ、艶を出し、無地の部分に上塗りを施します。1年もの長期間かけて作られるため堅牢優美、熱や水分にも強いのも特徴です。



・越前打刃物（えちぜんうちものはもの）／主な生産地：越前市

越前打刃物は、日本古来の火作り鍛造技術と手仕上げを主とした製品づくりが特長です。その発祥は約700年前に遡ります。京都の刀匠である千代鶴国安が名剣を鍛える水を求めての旅の途中、武生に留まって刀剣をつくるかたわら、鎌も手掛けるようになったのが始まりといわれています。以来、武生は農作業用刃物の一大産地となり、北陸独特の行商というスタイルで販売されていました。これには越前漆器の漆かき職人が、漆を求めて全国を行脚し、武生の鎌を活用すると同時に、刃物類を売り回り、各土地柄に応じた鎌の注文を持ち帰っていたという背景があったのです。



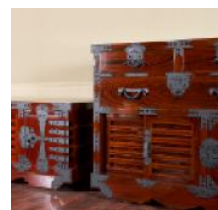
・越前焼（えちぜんやき）／主な生産地：越前町

越前焼は、日本六古窯の1つに数えられており、約850年前の平安時代末期から続いています。その特徴は釉薬を使わずに焼く焼締めや、灰釉を中心とした素朴な肌触りでぬくもりや暮らしに使う器としての美しさがあることです。高温焼成で茶褐色に焼き締まった越前焼は硬くて丈夫なことから、北海道南部から島根まで日本海沿岸に暮らす人たちに重宝されました。そして日本海側最大の窯場へと発展したのです。



・越前筆筒（えちぜんたんす）／主な生産地：越前市

越前筆筒のはじまりは、江戸時代後期頃です。越前府中の指物師が能面などの仕事の傍ら、お膳風呂や板戸を作り始め、本格的な筆筒を作る者もあらわれました。越前筆筒の特徴は、無垢材を使用し、釘を使わないほど接ぎ技術での制作です。表面は漆塗り、飾り金具は越前打刃物技術で作られる鉄製のものが使われています。漆塗りにより艶やかな光沢を帯び、耐久性も高まります。また最高級品はすべてケヤキ材を使用し、塗装法も春慶塗や呂色塗などが用いられます。



■ BEAMS JAPAN 概要

BEAMS JAPAN は、世界中のさまざまなモノ・コトを提案してきた BEAMS が“日本”を切り口に立ち上げた、ファッション、銘品、音楽、アート、地方文化、飲食までを国内外に発信する総合プロジェクト。新宿、渋谷、京都に店舗を構える。

これまでも、数多くの企業や自治体などとコラボレーションを組み、オリジナルアイテムの企画開発、店舗での販売やイベントを実施し、国内外に大きな反響をつくりながら未だ見ぬ日本の魅力を世界に届けています。

https://www.beams.co.jp/beams_japan/



■ 創作あーちすと「のん」さんプロフィール

女優、創作あーちすと。

1993年兵庫県生まれ。2016年公開の劇場アニメ「この世界の片隅に」で主人公・すずの声を演じ、第38回ヨコハマ映画祭「審査員特別賞」を受賞、高い評価を得る。作品は同映画祭で作品賞、第40回日本アカデミー賞では最優秀アニメーション作品賞を受賞した。

2017年に自ら代表を務める新レーベル『KAIWA(RE)CORD』を発足。シングル『スーパーヒーローになりたい』『RUN!!!』とアルバム『スーパーヒーローズ』を発売。2019年6月ミニアルバム「ベビーフェイス」を発売。

創作あーちすととしても活動を行い、2018年自身初の展覧会『のんひとり展-女の子は牙をむく-』を開催。

